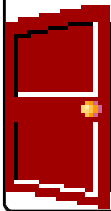


令和5年度《昨年度に続き、今年度も読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

N o 72

桑村小学校令和6年1月10日 文責 渡邊

訊ねることは、とても大切なことです!!

『内外教育』という教育雑誌が時事通信社より発行されています。令和5年11月21日号の巻頭面で大分大学大学院教授の清國先生は、次のような文章を寄せています。

(前略)

集団での対話では圧倒的に「聞く」時間が長い。だからこそ、この聞く時間の質が重要であり、「聴く」と「訊く」をここに投入することが有効なのだ。

豊かなリアクションでよく聴くことができれば、話しては高いパフォーマンスを発揮できる。それでも本質に迫れない場合、的確に「訊く」ことにより、内なる思いを引き出すことができる。(後略)

また、本雑誌の最終面には、本田氏の文言を引用し、次のような文章が記されていました。

(前略)

ホンダの創業者である本田宗一郎氏は次のように述べている。「未来を知ろう、未来へ進もうということを、私はそっくり他人に教わろうとも思わず、本に書かれたものをそのまま鵜呑みにはしなかった。それらは他人の過去だということを知っていたからだ。自分の知らないことがあったとき、友達や知合いが、喜んで何でも教えてくれるような人に育てることの方が、自分だけの頭にわずかな知識を詰め込む人より、人生は楽しく大きく開けるのではないかと私は思う」(後略)

桑村小学校では、温かな支持的風土を形成し、聴き合う活動を大切にしています。

かつての日本の学校教育では、教師も子供も知識を正しく再生する「正解」を求めてきていたように思われます。しかし、社会の変化とともに、それは大きく転換しました。

平成28年の中央審議会の答申では、新しい時代に必要となる資質・能力として以下の3点をかかげました。

①生きて働く知識・技能の習得、②未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成、③学びを人や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養です。



【聴き合いを大切にした授業】

知識については、覚えて終わりではありません。それをいかに活用していくのが求められているのです。そして、思考力・判断力・表現力等については、未知の状況に対応することが必要になってきました。これはどういうことかと言うと、「習ってないから分かりません」という答えが成り立たないということです。これまでの自分の経験をもとに、自分なりの応えを創り出すのです。そこには、友達や教師との関わりが求められます。他者とコミュニケーションを図り、学んでいくのです。そこには、「訊く」という行為が重要となってきます。そして、こうした学びを展開することにより、学びに向かう力や人間性が育まれていきます。

これからの学びがどんどん楽しくなっていきそうで、何だかワクワクしませんか？